

Q
3-1

噴火が起こると周りの植物はどうなりますか？

A

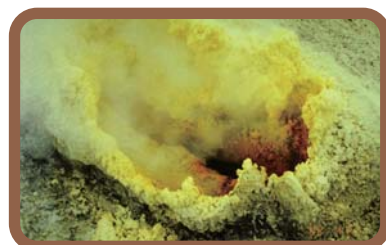
火山灰や泥流に埋もれたり、火山ガス（噴気）に覆われたりすると、植物は枯れて

しまいます。十勝岳の火山ガスは、硫黄性の有毒なガスであるため、人間も噴気に

近づきすぎるとたいへん危険です。



火山ガスにまかれて枯れたと
見られるハイマツ



硫黄が付いて黄色くなった

十勝岳の噴気孔 写真提供：岡田 弘 氏

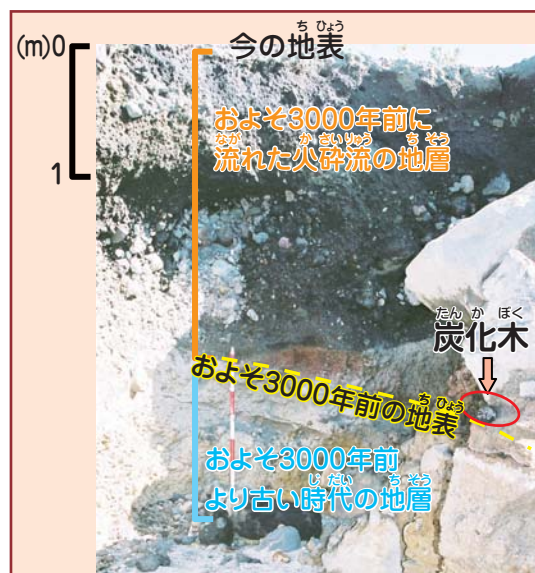
右の写真の赤丸で示した所に近づいてみると...



炭化木

十勝岳の望岳台付近で見ることができる、火
砕流の地層の中に埋もれた炭化木の様子。

火砕流や泥流に埋もれた植物が、その場
で炭や化石となり、地層の中から発見され
ることもあります。蒸し焼きにされて炭と
なった炭化木は、火砕流が非常に高温で
危険なものであることを物語っています。



Q 3-2

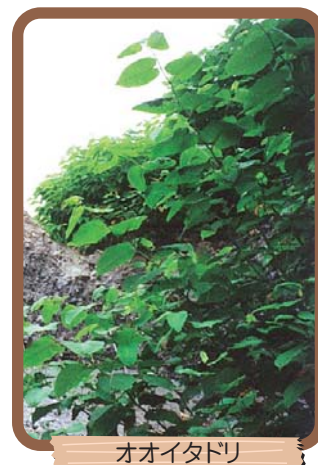
噴火から何年経ったらまた植物が育ちますか？

A 植物たちの力はとてもたくましいものです。1926年に十勝岳で起きた大正泥流に襲われた場所は、森林が破壊されてしまいましたが、次第にまた植物が育っていきました。しかし、災害前のような森林ができるまでには何百年もかかります。荒れた土地では大雨の時などに種や芽が流されたりするため、大正泥流から90年以上経った今でも、森林が元にもどらないところもあります。



大正泥流通過直後の様子

写真提供：東京大学・多田文男教授(当時)



オオイタドリ

大正泥流に襲われた後、2～5年には、硫黄分や酸性に強い、オオイタドリなどの植物が生えてきました。

北海道自然百選の1つ『白樺街道』

白金温泉近くの道路の両側には、見事な白樺の林が3kmほど続いています。よく見ると木々の幹の太さが大体同じぐらいであることが分かります。この白樺の林は植林したものではなく、1926年の大正泥流に襲われた荒地に自然に成長した白樺の林なのです。



(2007年撮影)



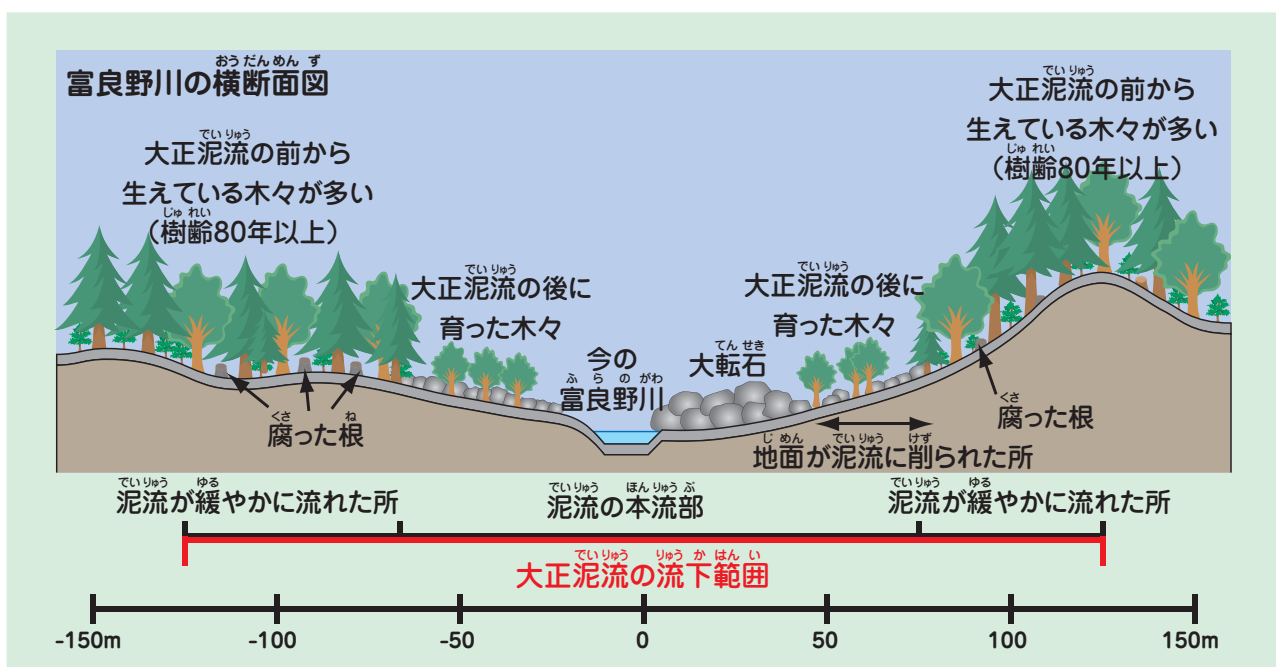
遊歩道を歩きながら、白樺並木の様子を観察してみましよう。

Q 3-3

火山と植物との関係をもっと教えて

A 樹木の高さや太さ（年輪）などを調べると、大正時代の泥流が流れた時の様子を
知ることができます。比較的低くて若い樹木が多く生えている場所は、泥流に襲わ
れやすいために地面が安定せず、森林（植生）の破壊と再生を繰り返している所なのです。

富良野川の中流付近を調べてみると、1926年の大正泥流に襲われた後に育った木々は若
いため、背の低い樹木になっています。泥流が通っていない所や緩やかに流れた所では、高
い樹木が残っています。若い木か古い木かは、年輪からも知ることができます。



旭川土木現業所提供「大正泥流流下痕跡図」を基に作成



(2006年撮影)

泥流に襲われなかった
吹上温泉付近の古い樹木



大正泥流の本流が通らず、古からの
森林が残っている所（高い樹木）

大正泥流に襲われた後に
育った若い樹木

(2006年撮影)